



十六卷

葉集

竹取翁歌解

全



賀茂真淵著一冊

昭和五十三年十二月、飯島
書店にて 村井 順

茶の葉集の中にも竹取の公羽のふりかへいよの
 ちよふくかまらまよる契沖法師真淵は
 翁のむすひのむすひのむすひのむすひのむすひの
 おうきしんかきよえのふえぬらあ
 しんまらう兄ももたのめんしんせ川木田久老
 神主のむすひのむすひ伊豫國野井安定はひよ
 らしん料又訓点し考をもとく九
 らしん一しんあおの族はひよのすの



又古よはむききてありつゝ長谷川管緒
 楓の落葉のつゞしむ方紫木若くは生る人はいと
 待とほむきこはまつこれけりをいともみよ梓よ
 きのせんそくもらゆく便よまらつゝ端書せよ
 れいさいもむしゝもあゝぬはまゝ

寛政十一年卯月

正五位下 披経亮

萬葉集 十六卷 竹取翁歌

從四位下荒木田久老神主解

昔有老翁號曰竹取翁也。此翁季春之月登丘
 遠望忽值煮炙之九箇女子也。百嬌無儔花容
 無止于時娘子等呼老翁唯曰叔父來乎吹此
 焔火也。於是翁曰唯々漸趨徐行著接座上良
 久娘子等皆共含咲相推讓之曰阿誰呼此翁
 哉爾乃竹取翁謝之曰非慮之外偶逢神仙迷

焔今本作燭也
 元曆授合本為
 焔從之

此端詞も
 漢文をわひと
 するがよ人の作
 あれが、今もまを
 逐つてをわけ
 あり。

竹取翁歌解



惑^{コノ}之^ニ心^{ヨヒ}。無^ト敢^ク所^レ禁^ナ。近^ナ押^ケ之^ハ難^シ。希^キ贖^{ハク}以^テ詩^ヲ。昂^キ作^ル詩^ヲ。

一首并短歌

解疑云物語中竹女ありしゆありハ天竺の大室廣博擣閣経の
一巻ニ。竹中竹女ありしゆありハ。又後漢書西南夷
傳夜郎者初有女子流於遼水有三節之大竹流入足間
其中有鞞聲割竹見之得一男思為是等城とてして去
ししゆありハ。おのこはあまのこといふのでその名ハ
あまのこといふことありしゆありハ。竹中竹女あり
しゆありハ。おのこはあまのこといふのでその名ハ
かく序をかきし。ちかみまよありししゆありハ。い
久老云のさハ師のいされ。おと。ちかみまよありししゆ
ありハ。あまのこといふことありししゆありハ。あまのこ
ありしゆありハ。向並の長を短き。あまの首きま。ちかみまよあり
あまのこといふことありししゆありハ。あまのこといふことありししゆありハ。

今もひて考をなす。あまのこといふことありししゆありハ。

緑子之。みどりこ。いと幼稚の子をいふ。卷三。緑子の乞食毎
見。弥止利ワクゴカミニハ。若子ハ。わくおとよむ侍也。日本紀のあま
子とにんこ。若子蚊見庭。思寐能和俱吾。愷那能倭俱吾と見え

假字。身ニ也。垂乳為。懸乳。為ハ乳の徑をいふ。いれ。あまのこ。巻
新とおる。ふ仔を乳を為して。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。
乳の乳と目どく。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。
祢見屋祢をいふ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。
あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。

母所懐。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。
あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。
あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。

の傍也。搓襪。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。
あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。
あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。あまのこ。

今中水も水も
假字は明ひ
と長もた
あ、作有、倭文
此解、万巻
三の解、

平生蚊見庭
假字、這子を
結經方衣
カミギモ、結經、假字、木綿

水津裡丹縫服
縫つて、倭文、
水津裏、倭文を裡

頸著之
師説、童子、髪

童子蚊見庭結
ウナ井カミニハ、
童子、蚊見庭、結

幡之
結幡、夾纏、
袂着衣
卷、サ、官人の

吾丹因子等何
ワニヨスコラガ、
吾丹、因子、等何

四千庭
卷、五、
推、マ、
卷、十、四、

吾郷の儂
吾郷の儂、
吾郷の儂、
吾郷の儂、

子等何、何の清
音、
續紀、
集、中、
の、字、
清、
音、
非、也、
為、余、知、從、之、

卷七の天の香
昔の草の香
神那那の香
かきつばたの香

三名之綿

真魚の鱗を魚乃香臭らるる香臭なる

えん神代紀の香臭なる香臭なる香臭なる

藻奥津藻の香臭なる香臭なる香臭なる

於是蚊寸垂 信櫛持

或は蚊寸垂の香臭なる香臭なる香臭なる

取束擧而裳纏見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

丹成見 解乱童児

卷七の墨江の遠里小野は、
丹總之

為衣丹シキヌニ、金丹總コニニシキ、拍錦ヒキ、
波累服ナニカサチキ、

刺部重部サシヘカサチヘ、
打十八為ウキソハシ、

兒等コウ、
打麻ウキマ、

打十八為ウキソハシ、
波累服ナニカサチキ、

兒等コウ、
打麻ウキマ、

打十八為ウキソハシ、
波累服ナニカサチキ、

兒等コウ、
打麻ウキマ、

寶之兒等タカラノコウ、
寶之兒等タカラノコウ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

打拷者ウツタヘハ、
打拷者ウツタヘハ、

取あはるあはれは、裳を取あはるも、醜とあはるも、
卷十三、刺將燒小屋之四忌屋、カニ所控將折息之四忌手平、カニ
とらるる下例よ、取あはる下、カニの爲、カニを脱せ、カニあはる
あはる一、カニを脱せ、カニあはる、カニの麻績の兒、カニ田税の兒、カニ也。
為支屋所經、カニ爲支屋ハ醜屋、カニ也。所經ハ、カニ也。
寸丁女救、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
妻問迹、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
我丹所未為、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
浮方之、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
飛鳥、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
飛鳥壯救、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
霖禁縫為黑沓、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
刺佩而、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
莫立林尾迹女、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
蚊髮髻聞而我丹所未為、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。

フタアヤシタグツ、裏沓ハ襪也。裏沓を脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
二綾裏沓、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
襪を着る、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
飛鳥壯救、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
霖禁縫為黑沓、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
刺佩而、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
莫立林尾迹女、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。
蚊髮髻聞而我丹所未為、カニ卷十四、カニを脱せ、カニあはる、カニの類、カニ也。

来鳴翔經 キナキカテラフ 秋避而山邊尾 アキサリテヤマノヘ

往者名津蚊為迹我矣忠經蚊天雲裳行田菜引

所來の所も、此れを以て、ウチヒサス 打日刺 ウチヒサス 宮 ミヤ 還立路尾所來者 カヘリタチノミチヲク

宮尾見名 ミヤノミナ 刺 サス

竹之 タケノ 舍人壯裳 トコリヲトコモ

忍經等冰 ニヌキノヒ

還冰見乍誰 カヘラヒ

子其迹哉所思而在 コソトヤ

如是所為故為 コトナレ

古部狭々寸為我哉 イニハノサハ

忠父... 助... 類...

端寸ハ為 愛ヤ...

哉 不知二五寸許須...

不知所為故...

古部之賢人藻...

其の原穀...

後之世之堅監將為迹...

老人矣送為車持還末...

竹取歌歌辭...

宇治五十槻大人著

日本紀歌解

槻乃落葉

三冊近刻

同

古事記歌解

同

二冊嗣出

寛政十一年己未八月開板

京師書林

埜田藤八
林安五郎

